

文化財学習会

ふるさと探訪

ふりゅう

テーマ 祭礼百態－香川・瀬戸内の「風流」

講師 瀬戸内海歴史民俗資料館長 田井 静明

日時 令和元年9月1日（日）



共催

高松市歴史民俗協会

高松市文化財保護協会

高松市教育委員会

目次

目	主な展示資料―祭りの原動力、神々や見物人を喜ばせる「風流」の心	
6	滝宮の人形を乗せたつくり太鼓（土庄町）	・・・5
5	まだある香川の魅力ある民俗行事	・・・4
4	獅子舞王国香川	・・・4
3	香川県の祭礼風流	・・・3
2	祭りから「祭礼」へ	・・・3
1	祭り	・・・2
目	展示構成とみどころ	
目	展覧会紹介	・・・1

7	王ノ下のだんじり (高松市)	・	・	・	6
8	女木島中の組の屋台 (高松市)	・	・	・	6
9	八兵のだんじり (観音寺市) <small>はちべい</small>	・	・	・	7
10	釣東の小船 (高松市) <small>つりひがし</small>	・	・	・	8
11	上三名の高荷馬 (高松市) <small>かみさんみょう たかにうま</small>	・	・	・	8
12	虎頭の舞 (東かがわ市) 県無形民俗文化財	・	・	・	9
13	関連行事等	・	・	・	10

Ⅰ 展覧会紹介

人口減少や限界集落化への対応が喫緊の課題として社会問題化する今、地域社会で長く培われ今日では地域の誇りや紐帯としての意味も深く認識されている祭礼行事や民俗芸能をテーマにした特別展を開催します。

本展では、香川・瀬戸内の祭礼・民俗芸能史を掘り起こすとともに、その発達に大きな影響を与えた「風流」ふうりゅうの伝播・受容などについて県内外の絵画・歴史・民俗資料からたどります。また、香川・瀬戸内の祭礼に特徴的な布団太鼓などの屋台祭礼や全国有数の多様性と数をほこる獅子舞、奴などを中心に、その特徴や多様性について、写真や映像などを多用しながら紹介します。

そして、変容する地域社会において祭礼や民俗芸能を継承していくために行われている各地域の工夫や努力についても紹介し、地域の民俗文化の継



石清尾八幡宮祭礼図巻（香川県立ミュージアム所蔵）

承に寄与します。

II 展示構成とみどころ

【展示構成】

1 祭り

古い形式の「祭り」は、トウヤと呼ばれるその年の当番の家、または家々の人たちによって行われた。トウヤの中心となるトウニンは、身を清めて祭りを行った。

「祭り」を行う際に、神を迎えるため、目印として、高い竹竿などが立てられた。これを「よりしろ」と言う。また、神々が依りつく清らかな幼い子どもは「よりました」と呼ばれた。

「祭り」は、夜を中心に行われた。祭りには神饌と呼ばれる供え物が用意された。神饌は、神送りの後で、人々に配られ食べられた。

この章では、香川県内の事例により、祭りの古い形式について紹介する。

2 祭りから「祭礼」へ

古代末期以来、神々を喜ばせたり、慰めたりするため、祭りにおける「風流」の心が発達した。派手な衣装や飾り、歌舞音曲などが行われ、それはやがて見物人を喜ばせたり驚かせたりするようになった。

ここでは、江戸時代以降、地方の祭りに影響を与えた京都の祇園祭や大阪の天神祭、城下町で行われた祭礼などについて、屏風や絵巻物などで紹介する。

3 香川県の祭礼風流

江戸時代には、香川県でも金刀比羅宮や白鳥神社、石清尾八幡宮などで、さまざま祭礼風流が展開した。それらの祭礼に見られる行列や奴、人形などを乗せた屋台などについて、絵巻物や記録、使われる道具で紹介する。

また、太鼓台やだんじりなど、香川県の特徴的な屋台祭礼を紹介する。

4 獅子舞王国香川

香川県には、かつて千二百件を超える数の獅子舞があり、現在でも約八百件の獅子舞があるとされている。この章では、獅子舞の始まりや多様に展開する様子を紹介する。獅子頭や獅子舞で使われる道具、油単、舞の様式など新しい展開を見せる獅子舞も紹介する。

5 まだある香川の魅力ある民俗行事

香川の民俗芸能や民俗行事には、祭礼に際して奉納されたものや年中行事の中で行われ、独特な展開を見せているものもある。神楽や農村歌舞伎、人形浄瑠璃、亥の子、八朔行事など、香川の魅力ある民俗行事の数々を紹介する。



ひょうげ祭りの神具

目 主な展示資料 — 祭りの原動力、神々や見物人を喜ばせる「風流」の心

6 滝宮の人形を乗せたつくり太鼓（土庄町）

小豆島では、県内でちょうさなどと呼ばれる太鼓舁き屋か台のことを「太鼓」と呼んでいる。

いぎすえ伊喜末八幡神社（土庄町）では、ダシと呼ばれる作りものを屋根に乗せた太鼓が祭礼を彩る。布団のかわりに、毎年世間で話題になった人物などを作って飾るもので、現在では滝宮と小海おみの二地区だけが奉納している。毎年、話題の人形などを作り変えて出し見物人を喜ばすという「風流」の趣向が今も生きている。



7 王ノ下のだんじり（高松市）

庵治町の皇子神社の夏祭りなどに奉納される太鼓舁き屋台のことを「だんじり」と呼んでいる。

だんじりは渡御行列（じゆぎやうりょう）などでは破風屋根（はふう）が乗せられ普通に担がれるが、クワイマックスでは屋根が取り払われ、舁（か）き棒の片方を地面につけ垂直に立てて回したりする。こうした、だんじりをつかった曲芸のような所作を行うところは、淡路島に数か所あり、「遣（つか）いだんじり」と呼ばれている。青年たちの「力と技」をアピールするパフォーマンス、見物人を喜ばせる「風流」といえる。

8 女木島中の組の屋台（高松市）

二年に一度行われる女木島大祭に登場する囃子屋台（はやし）で、床が張られてなく、中に入る鉦（かね）



や締太鼓の囃子方の子どもたちは、屋台の移動にあわせて歩
きながら演奏する。

こうした屋台は、底抜け屋台と呼ばれ、江戸時代の高松城
下の石清尾八幡宮祭礼に奉納された人形屋台や船なども床
が張られていなかったことが絵巻物などから知られており、
屋台の古いかたちを伝えていると考えられている。また、屋
台の後方は、色とりどりの布で飾られており、布を用いた「風
流」の趣向を見て取ることができる。

9 八兵のだんじり（観音寺市）

はちべい

大野原町の大野原八幡神社の祭礼行列に加わるだんじりの一つ。

だんじりには毎年、戦国武将や話題のスポーツ選手などに見立て
た人形が飾られ、その人物に合せた口説くどきが作られ奉納される。毎



年、新たに見立てられる人形とそれをことほ言祝ぐ口説きは、歌の「風流」ともいえる。

また、だんじりの中には、神霊が依りつく目印とも考えられる松が立てられており、古
いだんじりの要素も残している。

10 釣東の小船（高松市）

つりひがし

香西本町の宇佐神社に奉納される船の一つで小船と呼ばれる。

墨書銘から遅くとも明治時代の初めには作られていたことがわかる。高松城下の石清尾八幡宮の祭礼に奉納されていたお船を譲り受けたものと伝えられている。

県内の祭礼には約十隻のお船が出るが、その中でも古いかたちをとどめているものの一つである。奉納時には船唄が歌われる。



かみさんみよう たかにうま

11 上三名の高荷馬（高松市）

一宮町の田村神社の秋祭りに出される高荷馬である。昭和二十年頃までは生きた馬に色とりどりの布団や俵、花などで飾り立てて、行列に加わった。

明治初年頃の高松城下の石清尾八幡宮の祭礼にも同様の高荷馬が出ていたことが知られる。香川県中西部を中心に広く分布するちようさ（布団を五く七枚乗せた^か昇き屋台）にも通じる色布団の「風流」を見て取ることができる。

12 虎頭の舞（東かがわ市） 県無形民俗文化財

香川県の祭礼を彩るものの一つが獅子舞である。獅子舞はもともと行道ウチウチと呼ばれる祭礼行列の先頭をいき、先払いや氏子の災難除けなどの任を担っていたが、次第に芸を行うようになり、数も神社付き一つだったものが、氏子各地区ごとに奉納されるなど、数を増や



していった。その数は往時には千を超えていたとされ、さまざまな趣向が取り入れられ多様化している。

虎頭の舞は、江戸時代の人形浄瑠璃や歌舞伎などで人気を博した「国姓爺合戦」の主人公鄭成功ていせいこう（和藤内）の虎退治の場面を獅子舞に取り入れたものである。

13 関連行事等

★会期中、香川の祭礼を体感できる「民俗芸能公演」も開催

- ・ 九月一日（日） 午前十一時～ 吉津夫婦獅子舞（大原獅子組）、牛川獅子組
- ・ 九月七日（土） 午後三時～ 坂元大獅子

★講演会 「高松石清尾八幡宮祭礼図巻と大坂砂持祭礼図―恒例と臨時の祭礼―」

- ・ 日時 九月一日（日） 午後一時三十分～午後三時
- ・ 講師 福原 敏男 氏（武蔵大学教授）



・会場 地下一階講堂

・内容 高松城下の石清尾八幡宮祭礼のようすを描いた三種の祭礼図から、行列を彩った飾船や人形屋台などの出し物について紹介します。また、瀬戸内の祭礼風流に影響を与えたと考えられる近世大坂の臨時の土砂浚渫（川浚い）に伴う風流についても解説します。

★常設展でも祭礼に関わる資料・作品を公開しています。合わせて御覧ください。

（特別展観覧券で御覧になれます）

○常設展示室1 「水戸東照宮祭礼の世界」 令和元年七月二十六日（金）～九月七日（土）

高松松平家に伝わる「水戸御祭礼図」全五巻を一挙公開。元和七年（一六二二）に創建された水戸東照宮の賑やかな祭礼行列図には、各町内から出された人形山車や囃子屋台、仮装行列などが多数描かれています。華やかな近世祭礼の様子をご堪能ください。

○常設展示室2 「アート・コレクション 描かれた祭」 令和元年七月十七日（水）～九月七日（土）

所蔵作品の中から「祭」をモチーフにした絵画作品を選んで展示しています。身近にある「祭」を新たな視点でご覧ください。

9月1日(日)復路

- ・ことでんバス鹿角線「県民ホール前」(12:05 発)※高松駅、瓦町駅にも停車
- ・ことでん「高松築港」(12:15 発)
- ・JR「高松」(岡山方面 12:40 発)(徳島方面 12:53 発)
(琴平方面 12:27 発)(松山方面 12:50 発)(坂出方面 12:52 発)

❁次回のふるさと探訪は…

- ◎テーマ：「公洲菊花展を訪ねる」(予定)
- ◎と き：令和元年10月27日(日)午前9時半～正午
- ◎集合場所：未定
- ◎講師：久保 征四郎さん(東植田コミュニティ協議会文化部長)
- ◎探訪先：菊花展(公洲公園)、公洲池、高柿神社など
- ◎参加費：無料

★公共交通機関の御案内

- ・ことでん長尾線「高田」下車⇒タクシーで公洲公園へ

★注意

☆広報「たかまつ」10月15日号に開催案内を掲載予定です。

☆小雨決行。当日、警報が発令された場合は、中止とします。

なお、中止かどうか御不明な場合、午前7時30分～9時30分に文化財課(Tel 087-839-2660)でお知らせします。電話が通じない場合は実施予定ですので、集合場所にお集まりください。



「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。

ふるさと探訪ホームページはこちらから！
過去の資料約10年分も見られます😊

